



2025年度（令和7年度）

第2回「不登校を考える学習会」を開催しました。

2025年10月18日（土）
小郡市人権教育啓発センター

演題：「激動する社会変化から

日本の学校教育は どう取り残されてしまっているのか」
～新しい方向性は、そして わが子にどう向き合うか～

2025年度 第2回「不登校を考える学習会」を10月18日（土）14:00より小郡市人権教育啓発センターにおいて開催しました。

今回の講師は、ワーカーズコープ九州事業本部・沖縄開発室にご所属の山口祐二さんをお招きし、『「激動する社会変化から 日本の学校教育は どう取り残されてしまっているのか」～新しい方向性は、そして わが子にどう向き合うか～』というテーマでご講話いただきました。

今回の学習会には、31名の方にご参加いただきました。学習会の内容についてご紹介します。



○ 社会圧が世界、特に日本を覆っている

はじめに、現在の日本や世界の情勢についてお話していただきました。新型コロナウイルス感染症から5年が過ぎ、自然災害などが多発している近年、様々なストレスやプレッシャーが社会圧として多くの人に重くのしかかっているということ、そして、その圧は、人々からじわじわと生きる土台の心身の健康を奪っているという現状について具体例を交えてお話していただきました。さらに、急速な情報化が進む中で、AIが私たちの仕事を奪うかもしれない近未来についてのお話や、オランダやフィンランドなど海外における教育への特徴的な取り組みについても話していただきました。これまで積み上げてきた「日本型教育」の良さと海外の先進的な取組の良さをミックスしていくという視点は、今後の教育の方向性を考える上で重要なポイントになるのではないかと感じました。

○ 日本の「教育」 その現状は…

次に、現在の日本における教育公的支出や高等教育無償化の国際比較について説明していただきました。諸外国と比較して「教育」にかかる予算が相対的に低く、授業料無償化や給付型奨学金の制度化が十分に進んでいないという厳しい現状があります。そのような中でも、こども家庭庁の発足やこども基本法の成立、子どもアドボカシーをはじめとする、子どもに関わる様々な動きが出てきていること



についてお話ししてくださいました。また、特別支援教育の観点からインクルーシブ教育やダイバーシティ教育の重要性と現状についてのお話や、増え続けているフリースクール、オルタナティブスクール、子ども食堂など、子どもたちの大切な受け皿になっている取組について先生がこれまで関わられてきたご経験も踏まえてお話ししていただきました。

○ 子どもたちの「今」…

今、子どもたちを取り巻く状況に大きな変化がみられるそうです。一つ目は「低体温」の子どもが増えていること。二つ目に、不登校児童生徒やいじめの認知件数が過去最多になっていること。三つ目に、「将来に希望がない」と答えた子どもが約 40%と諸外国に比べて大変低い現状があるということです。その結果、自己肯定感が低くなったり、体験格差が広がったり、関係性が脆弱になったりするという弊害が生じています。その問題を解決していくために、関係性（依存先）をたくさん作りつながりを豊かにしていきながら、大人にも子どもにも「居場所」や「時間」、「味方」などの重要性について教示していただきました。



○ インクルーシブな教育実践の紹介

最後に、大阪の公立小学校のインクルーシブな教育実践についてお話ししていただきました。この小学校の実践は映画化されたこともあり、参加者の皆さんの中にもご存じの方も多くいらっしゃいました。不登校ゼロをめざしているこの小学校は、自分の気持ちをうまくコントロールできない子どもしょうがいがある子ども、みんな同じ教室で学びながら、保護者も地域の人も一緒になって誰もが通い続けることができる学校を作り上げてきました。参加者の皆さんからは、「学校が変われば、地域が変わる。地域が変われば、社会が変わる。」自分もまさにそう思う。」「困った時は「助けて!」と声を上げれる社会をみんなと一緒に作っていきたい。」といった感想をいただきました。これからも子どもたちを温かく見守り、関わっていくことの大切さを教えていただきました。

参加者アンケートより

- フラット、インクルーシブ教育、アドボケイド、など新しい言葉を聞きました。大きなくりのお話し、不登校のことだけではなく、社会の変わり目など、大変勉強になりました。
- フリースクールを選ぶ上でどのような視点で選んだらいいかという考え方や、地域に根ざすことが長続きするポイントだということがよくわかりました。
- 社会背景のことがよくわかりました。子どもの権利条約のことなど、機会を見つけて子どもに紹介することなど、自分にできることを少しずつやっていきたいと思います。
- 教育の改革は本気度が必要かなと思います。それと、教育にもっともっとお金をかけて欲しいと思います。子どもたちは未来の宝物です。



